

荒川医と南川史門による映像作品

- * いくつか複数のエピソードからなる連続ドラマシリーズ。全エピソードを一気に展示してもよいし、一週間ごとに新しいエピソードを加えるのもよいかもしれない。エピソードごとにモニターがあるとよい？
- * 南川の1999年から2003年頃の旧作（絵画作品）を「登場人物」と設定する。
- * 「登場人物」が様々なアクションやシーンを構成する。
- * 「登場人物」は意味の分からない言語（音楽、音、ノイズ？）を喋るが、字幕で日本語の意訳が挿入される。たまに英語またはフランス語の字幕も入る。（または文字だけのエピソードなどもある）
- * 舞台は東京の過去と未来。
- * 森未来都市研究所の東京の未来予想についてのビデオを借用したい。（このビデオはメタボリズム展で最近展示されていた）
- * 1999年から2003年頃の時事なども、ドラマになにげなく反映される。
- * 南川の新作も「脇役」として出演し、旧作との交流を深める。
- * 嫉妬、不安、ずるさなど、ネガティブな感情も表現される。
- * 絵画以外の実際の人間の「登場人物」も1人が2人出るかもしれない。
- * 「登場人物」がパリでSimon Hantaiの作品と会談するシーンもある。（海外口ケ希望）「登場人物」はSimon Hantaiを、シモン・ハンタイ、史門反対、史門ヘンタイと聞き間違おう？参照：<http://www.youtube.com/watch?v=Ses7VVbYV0E>
- * 恋の予感や、官能的な視線も、ドラマにある。コミカルなシーンもある。
- * フィクション性をともなう過去を再構築する。絵画の物質性を介して、架空の過去がフィジカルにたちあがらないか？
- * アメリカを中心に活動する荒川は1998年から2006年ごろは日本では美術活動はしていなかった。荒川にとっては、当時の南川のを介して、その頃の文脈を発見する部分もあるかもしれない。
- * 連続ドラマは基本的に最終回を迎えないが、続編として、展覧会会期中にパフォーマンスとして、新たなエピソードが加わるかもしれない。
- * 南川の作品を媒介（よりしろ？）として、荒川と南川本人との相互的な見解、（絵画に関して、パフォーマンスに関して、絵画の社会性に関して）が、誤解や期待も含めて展開される。
- * 恐らく展覧会では南川の絵画作品は展示されない。（パフォーマンスがあった場合には実物が登場するが）または展示されるが、実際の映像と合わさった形で展示される。参照：http://www.contemporaryartdaily.com/2011/07/hasta-manana-at-greene-naftali/ea001_installationview_b/
- * ドラマのシーンからの写真作品があるかもしれない。
- * TVの深夜放送（Eテレなど）などで、不特定多数に放送するイベントもあっていいかも知れない。またはアップリンクなどと協力して映画館での上映会など。
- * 撮影は5月中旬から6月中旬予定。荒川の滞在費用を捻出できるか。